

イベント概要

[企業名] 日本製紙株式会社

[企業 ID] 3863

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2023 年度 第 3 四半期決算説明会

[決算期] 2023 年度 第 3 四半期

[日程] 2024 年 2 月 9 日

[時間] 17:04 – 17:50
(合計：46 分、登壇：15 分、質疑応答：31 分)

[開催場所] 電話会議

[登壇者] 取締役 執行役員 管理本部長 板倉 智康 (以下、板倉)
執行役員 企画本部長 瀬邊 明 (以下、瀬邊)
経理部長 的場 宏充 (以下、的場)
経営企画部長 佐野 孝典 (以下、佐野)

連結損益概要

(億円)

	2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	8,494	8,745	251	3.0%
営業利益	▲228	93	321	—
経常利益	▲195	76	271	—
当期純利益*	▲257	▲83	174	—

* 親会社株主に帰属する当期純利益

- 売上高は、価格修正の効果発現などにより、前年同期比で増収。
- 営業利益は、コストダウンの効果や製品の価格修正の寄与により、黒字に転じた。
- 特別損益は、政策保有株式などの売却に伴う投資有価証券売却益や、Opalのグラフィック用紙事業撤退損を計上。

Copyright © NIPPON PAPER INDUSTRIES CO., LTD. All rights reserved 2

板倉：管理本部の板倉でございます。よろしくお願いいたします。

私から 2023 年度第 3 四半期決算概要につきまして、ご説明させていただきます。

売上高は各種価格修正の効果発現などにより、前年に対して 3.0%増の 8,745 億円となりました。損益についてはコストダウンの効果や価格修正の寄与により、前年同期に対して 321 億円増益となり、営業利益は 93 億円となりました。

営業外損益では、持分法投資損益が前年同期に対して減少しました。特別損益では政策保有株式などの売却に伴う、投資有価証券売却益 45 億円を特別利益に計上する一方で、Opal 社のグラフィック用紙事業撤退損 96 億円を特別損失に計上しています。

以上の結果、経常利益は 76 億円、当期純損失は 83 億円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

セグメント別概要

(億円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年 同期比	2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年 同期比
紙・板紙	4,162	4,306	144	▲220	81	301
生活関連	3,285	3,285	0	▲66	▲60	6
エネルギー	322	392	70	▲22	▲3	19
木材・建材・ 土木建設関連	508	538	30	63	67	4
その他	217	224	7	17	8	▲9
合計	8,494	8,745	251	▲228	93	321

Copyright © NIPPON PAPER INDUSTRIES CO., LTD. All rights reserved 3

セグメント別の売上高と営業利益はご覧のとおりです。

売上高は全てのセグメントで増収となり、8,745億円となりました。また、営業利益はその他事業を除いて増益となりました。詳細は後ほど、セグメント別業績のところの説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

増減要因内訳

(億円)

		紙・板紙事業		生活関連事業	
数量・売価	612	484	—	128	—
原燃料価格	▲173	▲120	チップ ▲59、古紙 8、パルプ ▲3、重油 ▲7、石炭 15、LNG 12、薬品他 ▲86 (価格影響 ▲29、為替影響 ▲91)	▲53	パルプ ▲19、チップ ▲6、薬品他 ▲28
コストダウン等	67	61	原価改善 21、秋田・石巻停機影響 10、労務費 21、その他 9	6	—
その他	▲199	▲124	海外事業 ▲24、減価償却 23、退職給付費用 11、受払影響ほか ▲134	▲75	海外事業 ▲55、受払影響ほか ▲20
合計	307	301	国内 325、海外 ▲24	6	国内 61、海外 ▲55
その他事業	14	エネルギー 19、木建土 4、その他 ▲9			
営業利益	321				
営業外損益	▲50	金融収支 ▲17、持分法投資損益 ▲21、為替差額 ▲1、その他 ▲11			
経常利益	271				

Copyright © NIPPON PAPER INDUSTRIES CO., LTD. All rights reserved 4

増減要因の内訳はご覧のとおりです。

全体として原燃料価格の動向は落ち着きを取り戻しつつも、2023年度第3四半期累計においては期末の在庫影響もあり、引き続き原燃料価格差で、紙・板紙事業、生活関連事業の合計で約170億円のコストアップが残っております。

紙・板紙事業は、対前年301億円の増益となりました。数量・売価はプラス484億円となります。販売数量は減少したものの、新聞用紙、印刷・情報用紙、段原紙などの価格修正効果が寄与しました。原燃料価格はチップや薬品、填料を中心にマイナス120億円となりました。

一方で、コストダウン等はプラス61億円の効果を発現しております。この中には、操業工夫による原価低減、省エネ、燃料転換といった原価改善や、秋田工場と石巻工場の設備停機などによる固定費圧縮の効果などが含まれております。

生活関連事業は対前年6億円の増益となりました。国内事業では、パッケージ、家庭紙・ヘルスケア、ケミカルのいずれの事業も原燃料価格高騰の影響があるものの、コストダウンや価格修正効果が寄与し、増益となりました。

海外事業ではOpal社のグラフィック用紙撤退に伴う販売数量減の影響が大きく、減益となっております。

その他事業については、エネルギー事業や木材・建材・土木建設関連事業で増益となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

紙・板紙事業

(億円)

売上高			営業利益		
2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年同期比	2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年同期比
4,162	4,306	144	▲220	81	301

- 国内
 - ・洋紙と板紙の国内販売数量は、需要が低調に推移し、前年同期比で減少。
 - ・チップや薬品など原燃料価格の上昇による影響はあるものの、コストダウンの効果や製品の価格修正の寄与により、黒字に転じた。
- 海外
 - ・十條サーマル(JTOy)は、欧州における感熱紙の需要が低調に推移したこと、原燃料価格上昇により、営業利益は赤字となった。

Copyright © NIPPON PAPER INDUSTRIES CO., LTD. All rights reserved 5

ここからはセグメント別の業績についてご説明します。

まず、紙・板紙事業についてです。国内事業についてですが、洋紙、板紙とともに需要が低調に推移し、国内販売数量は前年同期を下回りました。チップや薬品、填料など原燃料価格の上昇による影響はあるものの、原価改善や固定費削減といったコストダウンの効果、および製品の価格修正効果が寄与し、営業利益は黒字に転じております。

一方で、海外事業は十條サーマルにおいて、欧州における感熱紙の需要が低調に推移したことに加え、原燃料価格の上昇により、営業利益は赤字となりました。

以上の結果、紙・板紙事業は前年に対して増収増益となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

生活関連事業

	売上高			営業利益			
	2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年 同期比	2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年 同期比	
国内	1,452	1,603	151	▲7	54	61	パッケージ 34、ケミカル ▲9 家庭紙・ヘルスケア 36
海外	1,833	1,682	▲151	▲59	▲114	▲55	Opal ▲55、NDP ▲1、TSP 1
合計	3,285	3,285	0	▲66	▲60	6	

- 国内
 - ・ヘルスケア製品などの販売数量は増加。
 - ・機能性フィルムやティシューペーパー、液体用紙容器などの販売数量は減少。
 - ・原燃料価格高騰の影響はあったものの、製品の価格修正が寄与したことで、増収増益となった。
- 海外
 - ・Opalは、グラフィック用紙事業の撤退に伴う販売数量の減少などにより、前年同期比で減収減益となった。
 - ・日本ダイナウェーブパッケージング(NDP)は、製品の価格修正が寄与したものの、販売数量の減少などにより、減収減益となった。

Copyright © NIPPON PAPER INDUSTRIES CO., LTD. All rights reserved 6

次に生活関連事業の業績について説明いたします。

国内事業はヘルスケア製品などの販売数量は増加しましたが、機能性フィルムやティシューペーパー、液体用紙容器などの販売数量は減少しました。社会経済活動の正常化が進む中、物価高の影響などにより、需要動向に差が見られております。全体としては原燃料価格高騰の影響はあったものの、コストダウンや製品の価格修正が寄与したことで、増収増益となりました。

海外事業のうち、Opal社はグラフィック用紙事業の撤退に伴う販売数量の減少などにより、前年同期比で減収減益となり、営業利益の赤字が拡大しております。北米のNDP社は製品の価格修正が寄与したものの、販売数量の減少などにより減収減益となっております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

エネルギー事業

売上高			営業利益		
2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年 同期比	2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年 同期比
322	392	70	▲22	▲3	19

(億円)

・勇払エネルギーセンターが営業運転を開始したことなどにより、増収増益となった。

木材・建材・土木建設関連事業

売上高			営業利益		
2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年 同期比	2022年度 3Q累計実績	2023年度 3Q累計実績	前年 同期比
508	538	30	63	67	4

(億円)

・新設住宅着工戸数が減少し、原木や建材品などの販売数量は前年同期を下回ったものの、燃料チップの取扱量が増加したことなどにより、増収増益となった。

Copyright © NIPPON PAPER INDUSTRIES CO., LTD. All rights reserved 7

エネルギー事業は、2023年2月に勇払エネルギーセンターが営業運転を開始したことなどにより、増収増益となりました。なお、第3四半期につきましては釧路事業所、日本製紙石巻エネルギーセンター、勇払エネルギーセンターのいずれも大型休転があり、セグメント合計では赤字となっております。

木材・建材・土木建設関連事業は、新設住宅着工戸数が減少し、原木や建材品などの販売数量は前年同期を下回ったものの、燃料チップの取扱量が増加したことなどにより、増収増益となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

連結損益概要

	2022年度 実績	2023年度 修正予想	(億円)	
			2023年度 前回予想	増減額
売上高	11,526	11,700	12,300	▲600
営業利益	▲269	190	240	▲50
経常利益	▲245	150	180	▲30
当期純利益*	▲504	150	150	0

* 親会社株主に帰属する当期純利益

■第3四半期までの業績および直近の状況を踏まえ、予想を見直し。

Copyright © NIPPON PAPER INDUSTRIES CO., LTD. All rights reserved 8

こちらは業績予想ということになりますが、2023年度の通期業績の見通しにつきましては、第3四半期までの業績および直近の状況を踏まえ、ご覧のとおり修正いたします。売上高は各種製品に取り組んでおります、価格修正による効果は計画どおり発現しているものの、直近の販売状況などを踏まえまして下方修正しております。営業利益と経常利益も下方修正しております。

第3四半期は操業不調によるコストアップ、販売数量の伸び悩みなど、営業利益は計画を下回る水準となりました。また Opal 社や NDP 社など海外事業の収益状況なども考慮した結果、見直しを変更させていただいております。

当期純利益につきましては、従来どおり 150 億円としております。また、配当につきましては引き続き未定としております。来期以降も含めた業績の動向を、事業環境を見極めた上で判断したく、配当予想の開示が可能となった時点で、速やかに公表したいと考えております。何とぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

セグメント別概要

(億円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 実績	2023年度 修正予想	前年 同期比	2022年度 実績	2023年度 修正予想	前年 同期比
紙・板紙	5,632	5,700	68	▲292	145	437
生活関連	4,401	4,420	19	▲78	▲85	▲7
エネルギー	499	540	41	▲17	15	32
木材・建材・ 土木建設関連	689	730	41	89	95	6
その他	305	310	5	29	20	▲9
合計	11,526	11,700	174	▲269	190	459

Copyright © NIPPON PAPER INDUSTRIES CO., LTD. All rights reserved 9

セグメント別の売上高と営業利益はご覧のとおりとなります。

売上高は第3四半期までの実績を鑑み、紙・板紙事業で360億円、生活関連事業で80億円、エネルギー事業で140億円、木材・建材・土木関連事業で20億円、それぞれ前回予想を下回る見込みです。営業利益は木材・建材・土木建設関連事業が前回予想を上回る見込みですが、紙・板紙事業、生活関連事業が前回予想を下回る見込みとしております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

主要な前提条件

■国内販売数量(対前年)

	下期	通期	(前回予想)	
			下期	通期
新聞用紙	▲12%	▲11%	▲13%	▲11%
印刷用紙	▲19%	▲16%	▲12%	▲12%
情報用紙	▲6%	▲7%	▲4%	▲5%
段原紙	▲3%	▲4%	▲2%	▲4%

■主要原材料価格、為替

	第4四半期	前回予想(下期)
為替(米ドル)	145円/ドル	150円/ドル
為替感応度	前回予想から変更なし	米ドル1円円高で+9億円/年
石炭	前回予想から変更なし	現状の調達計画を勘案 (豪州炭ベンチマーク価格:200ドル/t)
原油	前回予想から変更なし	85ドル/バレル(ドバイ)
古紙	前回予想から変更なし	足元の価格動向を勘案

Copyright © NIPPON PAPER INDUSTRIES CO., LTD. All rights reserved 10

業績予想に当たっての主要な前提条件はご覧のとおりとなります。

紙・板紙の国内販売数量につきましては、第3四半期の動向と足元の状況を勘案し、前回の前提条件を下回る水準で推移すると見直しております。

主要原燃料価格の前提は前回から変更ございません。為替ですけれども、第4四半期の前提につきましては150円から145円ということで変更しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

増減要因内訳

(億円)

		紙・板紙事業		生活関連事業	
数量・売価	702	542	—	160	—
原燃料価格	▲81	▲19	チップ ▲57、古紙 21、パルプ ▲4、 重油 ▲8、石炭 96、LNG 21、薬品他 ▲88 (価格影響 109、為替影響 ▲128)	▲62	チップ ▲6、パルプ ▲19、 薬品他 ▲37
コストダウン等	77	71	原価改善 38、秋田・石巻停機影響 10、 労務費 16、その他 7	6	—
その他	▲268	▲157	海外事業 ▲19、減価償却 29、退職給付費用 15、 受払影響ほか ▲182	▲111	海外事業 ▲87、 受払影響ほか ▲24
合計	430	437	国内 456、海外 ▲19	▲7	国内 80、海外 ▲87
その他事業	29	エネルギー 32、木建土 6、その他 ▲9		国内：パッケージ 29、ケミカル ▲2、 家庭紙・ヘルスケア 53 海外：Opal ▲57、NDP ▲31、TSP 1	
営業利益	459				

Copyright © NIPPON PAPER INDUSTRIES CO., LTD. All rights reserved 11

通期の増減要因についてはご覧のとおりとなります。

まず、紙・板紙事業の要因についてです。数量・売価では販売数量の見直しと、輸出市況の回復が鈍いことを織り込んでおりますが、その落ち込みを原燃料価格で補っている状況でございます。

コストダウン等は期初から取り組んでおります操業工夫による原価低減、省エネ、燃料転換といった原価改善や、秋田工場と石巻工場の設備停機などによる固定費圧縮の効果は、計画どおり発現しておりますが、第3四半期においての操業不調、効率悪化など、一時的なコストアップを考慮いたしましてプラス71億円と見直しております。現状、操業は正常な状況に戻っており、今後は安定的にコストダウン等の効果が発現すると見ております。

生活関連事業は、国内はケミカル事業の一部製品の販売数量の回復が鈍いことなどを織り込みました。海外はもう既に実績ということで織り込んでおりますが、Opal社とNDP社、足元の状況を見ております。Opal社は輸出市況の回復が鈍いということ、NDP社は販売数量が減少していることが影響しております。

来年度に向けましてはOpal社の立て直し、あと家庭紙事業等の投資の効果が見込めるということに加えて、引き続きのコストダウンの推進と、製品価格の維持・見直しをしっかりと進めてまいりたいと思っております。

以上をもちまして、第3四半期決算概要についての説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、ならびに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

